

絶対書いてほしい「思い込め

「ごうかな?とためらっちゃダメです。ダメもとで、でも絶対書いてほしいと思ってお願いするんです」

戦争法廃止の2000万署名に取り組み思いを話す堤美紀子さん(55)。取り組み始めて8日ほどで200人分集めました。昨年の戦争法案廃案を求める署名は150人でした。法案成立後は条件が整わず、できませんでした。「やる時は集中してやらないとできない性格なんです」と自己新記録更新中です。

あらゆる機会に派遣登録して食品の店頭販売などをする仕事で

行く先々で集め、8日で200人分

す。行く場所が当日告知されることもありすが、行く先々で会った人や、プライベートで初めて入った店など、あらゆる

名古屋の派遣労働者 堤美紀子さん

広げよう 2000万署名



署名活動に大活躍の愛車と堤さん

た。そのことを知ったのが20歳のときでした。それから歴史を学び、戦争が悲劇を生みだすことを知りました。署名に取り組む原動力です。

署名で断られたのは2人だけ。お願いする時は「こういうのあるけど」と署名を見せ、趣旨と多くの団体が取り組んでいることを紹介します。あまり見ずに承諾する人には書く前にちゃんと読んでもらいます。納得してもらった多くの人が「署名用紙を置いていって」と言ってくれるといいます。

「対話の機会に」

前回お願いした喫茶店の店員さんは、政治の話をしていない人でした。今回訪問すると、共産党が選挙協力で候補を取り下げ

ていることを「すごいね」と話しかけてきました。「署名をしたことで興味を持ってくれた。署名がいい機会になりました」と話します。

当初は「前回よりも少しでも多く取れば」と200人分を目標にしていた堤さん。署名用紙のコピー代を気にしていたら、訪問したガソリンスタンドの人が60枚もコピーしてくれました。「1枚5人分だから300人頑張れということか」。背中を押され、「集中行動期間」継続中です。

「あそこのパートさんは4時までにはいかない。家族も多いからいっぱい集まるかな。頭をフル回転させ、きょうも車のハンドルを握ります。」

(今村一路)